

片瀬のぞみだより

日本基督教団片瀬教会付属

片瀬のぞみ幼稚園

2025年12月号

家庭通信 2025 No.18

初体験してきました

さかのぼること9月中旬、以前片瀬地区の会合(のぞみ出身の人の多さにびっくり)で一緒になった方が幼稚園を訪ねてきました。内容は、片瀬中学校からの依頼で11月に「片瀬で働く社会人に聴く」というテーマで1年生に講師としてお話してくださいというものでした。「これってもしかして講演会的な・・・。」詳しくお話を聞くと、片瀬で働く大人から将来へのヒントを少しでも生徒さんが受取れたらというもので、何人かの方を招いて

一人20～30分程度のものということでした。内容としては、その職に就いた経緯やその職の仕事内容や必要なスキル、中学生に学んで欲しいことや伝えたいことを話してもらいたいとのことでした。初めは、恥ずかしいし、パワーポイント的な資料や映像は作れないし、中学生が自分の話なんてまともに・・・と自信の無さから経験したことのないことからネガティブな思いばかりで頭がいっぱい、「お断りモード」です。その時です、私の中のリトルゆう先生が言うのです、「いつも子どもたちにいろんな事に挑戦することの素晴らしさを伝えているお前が初めからNOでいいんですか。それこそ、中学生たちにそんな大人になってもらいたいですか?」と。そして、今年の3月、片瀬小学校を卒業して、すぐに証書片手に幼稚園に遊びにきてくれた卒園生たちが今、中学1年生だということを思い出しました。選択の余地はなく一択のみです、「私でよければぜひ。」とお引き受けする運びとなりました。準備期間は短くはなかったので、台本的なものを用意して、それを時間を計りながら読み上げては改良していつてを繰り返して仕上げていきました。途中で、中学生に伝えたいことが社会人としてあるべき姿勢的な「ザ 模範」のものになったりし、その都度、リトルに「お前は人に言えるような器ですか?」と諭されては方向修正していきました。講演が近づく頃には熱くなっていたやる気スイッチも迷子になりすぎてクールダウン傾向となり当日を迎えることとなりました。当日の朝、静かな礼拝堂で一人リハーサルして本番に望もうとしますが緊張と不安から全く頭に入らず焦りが押し寄せます(台本を読み上げるのはなるべく避けて生徒の顔を見ながらが目標なので)。ここは持ち前の「なんとかなるっしょ。」精神で切り替えて本番に臨むことにしました。いよいよ午後になり、ホームグラウンドの幼稚園を離れ、アウェイの片瀬中学へ(大袈裟ですがこのくらいの気持ち)。

ここから急に流れが変わります。教員入口に入るとすぐに卒園生保護者が今回の会のサポートとして、偶然?お出迎え。待機室までどうぞと案内され、ドアを開けると卒園生保護者が私と同じ講師として、偶然?座っているではありませんか(この方は:看護師として来ていました)。4人の講師が揃い、中学1年生130人位が待つホールに入場、指定の位置に着席しました。私は2番手だったので一番手のパティシエさんのお話を聞きながら中学生たちに顔を向けました。すると、卒園児たちがこちらに目を向けて手を振ってくれるのです、少し手を振り返して「ちゃんと前見て話を聞きなさい。」と表情とジェスチャーで促しますが内心メチャメチャ嬉しくて、緊張が楽しみへと変わり、やる気スイッチもようやくオンへ。そして、いざ、出陣です!!前に立つと、偶然か?前列側に割と多くの卒園生がニヤニヤしながら座っており、偶然か?後ろの保護者席には2人の卒園児の保護者が見守ってくれているではありませんか。そんなに知っている人がいると余計に緊張・・・するわけなく、私には大大大応援団となり、自分らしく元気に中学生のリアクションにも助けられながら今自分が伝えられるメッセージを楽しく届けることが出来ました。

講演後の交わりの時間にもみんな集まってくれて、「緊張してたでしょー、カミカミだったー、俺のこと覚えてる?」と話しかけてくれました。そして、その中の3人が「ねえ、先生、私たちね、生徒会に入ったの♪」と近況報告が。そのやる気スイッチで新しいことに挑戦しようとするこの子たちと始めはイヤイヤだったくせに今、終わって「やってよかった。」と思っている自分との対比にやつつけられた半面、そのように育った子どもたちに感激しました。幼稚園につながるみんなと神さまから試され、ちょっと苦しみ、最後に喜びと感謝が与えられるという素晴らしい初体験してきました。

園長 横山 流